

政府系アーカイブに関する研究

Research on Digital Archives in Japan

キーワード

政府系アーカイブ、知識創発型社会、共通モデル、ポータルサイト

1. 研究目的・概要

政府系アーカイブの社会的意義、現状、課題を明らかにした上で、政府系アーカイブのサービス展望および具体的政策を提言する。

2. 政府系アーカイブ構築の意義と必要性 - 知識創発型社会のインフラ「e-アーカイブ」 -

- ・電子政府におけるアーカイブ：行政効率の向上、行政の透明度向上、情報公開の円滑な運営、国民の情報リテラシー向上、国家機密情報のセキュリティ向上、技術研究開発他
- ・政府資源の活用：国民が共有する資産を有効に活用。文化の継承と発展、国際的理解の増進、経済効果・新分野創造・国際競争力の強化、教育および学習の情報化・振興ならびに人材の育成支援 他

3. 政府系アーカイブの現状・課題と提言 <現状>

- ・一元性不足（フォーマット、コンテンツ関連情報の省庁横断的な一貫性不足他）
- ・所在情報がわかりにくい
- ・既存コンテンツのデジタル化政策が必要
- ・情報発生段階からのデジタル化と体系的な保存・整理・廃棄基準の整備不十分
- ・著作権管理・保護、プライバシー保護等法的な環境整備必要 他

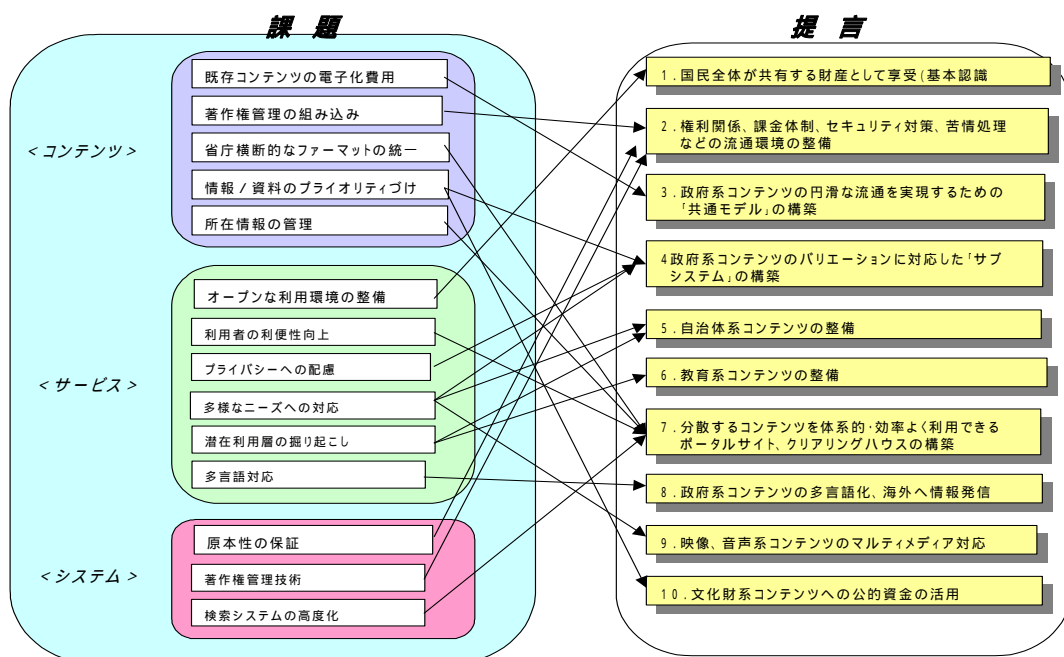


図 1 政府系アーカイブの課題と提言

4. 政府系アーカイブのサービス展望

(1) コンテンツの流通の基本的形態の展望：「共通モデル」を基盤として展開

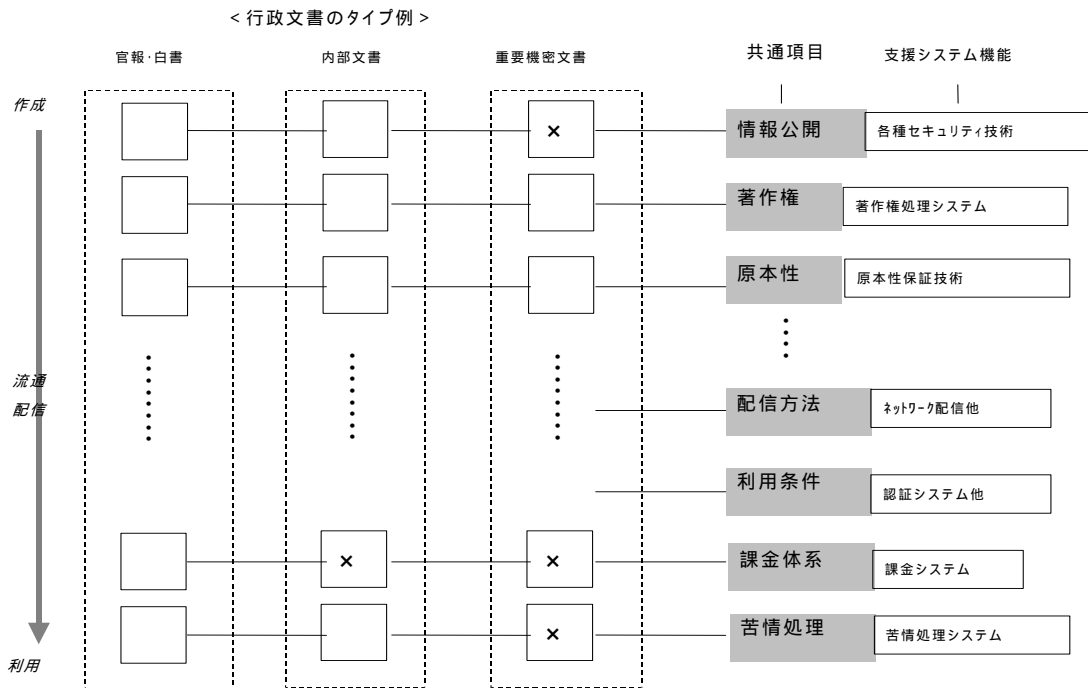


図2 行政文書のタイプと共通項目の関係

・固有の要求項目に対応：「サブシステムモデル」

各行政主体別に、共通モデルより、例えば文書毎に必要な機能を選択して採用、不要な機能を適用除外して構成する等により、類型に対応したサブシステムモデルを作成する。

(2) 省庁横断的な情報提供サービスを行う「ポータルサイト」、「クリアリングハウス」

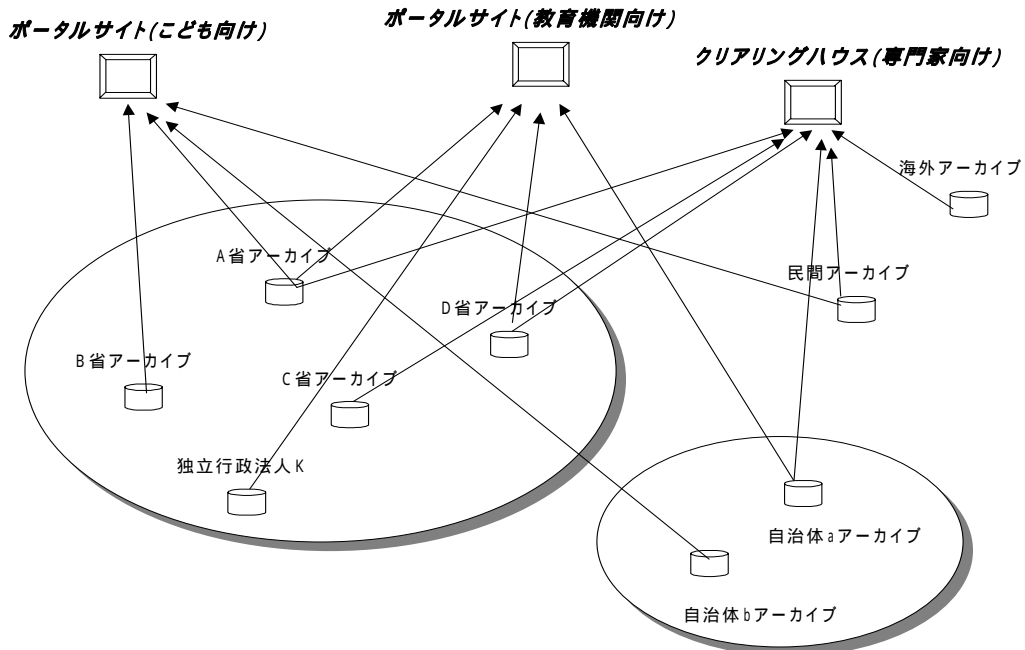


図3 多様なポータルサイトとクリアリングハウスの構築

- (3) 刊行物等へのサービス展開を、統一された方針と手順により利用できる流通システムを構築
- (4) 多言語化、バリアフリー化
- (5) 貴重書、歴史的文書等の画像提供と、テキスト化技術の検討
- (6) コピーマート、カプセル化技術、高速デジタル化技術、自動カタログング、ユーザーインターフェース等の技術開発と導入
- (7) 映像・音声などのコンテンツについてはマルチメディア対応の保存・流通環境について総合的に検討

5. 当面実施すべき施策

当面（ここ1・2年以内に）実施すべき施策としては、以下のような項目がある。

